

米国フロリダ州 グリーニング病対策で保護スクリーン下の栽培を拡大

[FreshPlaza 2025年4月17日](#)

保護スクリーン下の柑橘類栽培(CUPS)システムがより多くの品目に拡大

米国の生産者は、カンキツグリーニング病(HLB)の媒介昆虫であるミカンキジラミから果樹を保護するため、「保護スクリーン下の柑橘類栽培」(CUPS)システムを利用している。グレープフルーツは大部分がCUPSで栽培されているが、統計は他の柑橘類品目でのその可能性を示している。

フロリダ大学食品農業科学研究所のアーノルド・シューマン氏は、様々な柑橘類の品種について要件を定める必要性を強調する(以下「」は同氏の話)。「商業的にCUPSで栽培されているのはほとんどがグレープフルーツだ。それは非常に成功しているが、他の品目でも使いたいという願望がある。」CUPSで栽培される柑橘類の幅を広げ、品質を確保するための取り組みが進められている。

シューマン氏によると、バレンシアオレンジはCUPSの下で『優れた品質』を示している。「樹齢10年の成熟したバレンシアの園地がある。果実はバレンシアの典型的な収穫期である3月に収穫された。全可溶性固形物(TSS)はブリックス値13.9であった。酸は0.63%で、TSSと酸の比率は22であった。それは1箱当たり7.2ポンドの固形物に相当する。」バレンシアの若い園地は、TSSが8.5、酸が0.46%で、比率は19であった。

シューマン氏は、CUPSのもう一つの利点は、果皮が割れやすい品種でない限り、落果がないことだと指摘した。研究によると、シュガーベル、テンプル、ダンシー、アーリープライド等の品種では、果皮の割れの問題を除けば、肯定的な結果が得られている。

CUPSの導入を検討している生産者に対して、シューマン氏は実績のある品種に取組むことを勧めている。同氏は、「もし私がCUPSに投資するならば、赤肉系のグレープフルーツのように実証済みの信頼できる品種に大半、例えば75%を投資する」と述べ、残りを有望だがリスクのより高い品種に割り当てることを提案した。

出典: [Citrus Industry](#)

トルコ 厳しい霜害がリンゴ果汁の供給を脅かす

[FreshPlaza 2025年4月18日](#)

トルコで最近発生した深刻な降霜は、果樹園に甚大な被害をもたらした。市場参加者達は、最近の記憶の中で最悪の霜害の1つと表現している。政府当局は数週間かかると予想される被害の査定を実施するとともに、生産者を支援し国内価格の変動を緩和するための支援パッケージと市場介入の可能性を探っている。

霜は、アンズ、リンゴ、サクランボ、スモモ、ブドウ、モモ等、様々な果樹に影響を与えた。あるリンゴ果汁加工業者はExpana(情報サイト)に対し、状況は「悲惨」であると語り、霜が2025/26販売年度の濃縮果汁生産用のリンゴの作柄に影響を与えることを認めた。

トルコが世界の主要供給国である低酸度リンゴ濃縮果汁のExpanaベンチマーク価格(EBP)は、前年比で12.8%高い2,200ユーロ/トンとなっている。市場関係者は、作物の損失の程度によっては入手可能な濃縮果汁が不足する可能性があるとして予想している。

この霜害は、世界の貿易が不安定な中で発生した。米国と中国が貿易戦争状態にあり、米国が中国産リンゴ果汁に145%の関税を課したため、バイヤー達は代替の供給者を精力的に探し求めている。トルコは、行き場を失った米国の需要の一部を吸収する立場にあった。しかし、霜害は、すでに混乱している市場にさらなる不確実性をもたらすものである。

出典: [Mintec/Expana](#)